



No. 51  
2020.1.25



第五回白さぎ交流会開催

白さぎ吟行会大阪大会IN大津 開催

■目 次	2
■巻頭言 会 長〈西村夕城〉	3
■令和2年 白鷺新年互礼会	3
■令和元年度 実態調査結果について	4
■関吟総本部主催全国競吟大会に於ける白鷺会員の結果	4
■令和元年度 総会報告	5
■展 望 淞 苑 会 〈中谷淞苑〉	6
■第58回白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告	7
■白さぎ吟行会「大阪大会IN大津」開催される 広報部〈佐川駿声〉	8・9
■第5回 白さぎ交流会 広報部〈天田澄慈〉〈岳野恍輔〉	10・11
■周年大会等	
公認 浜松鷺長会創立55周年記念祝賀会	12
公認 岳豊会日高支部創立40周年記念吟詩大会	13
恩師 松尾鷺恵を偲ぶ会 〈山田峻恵〉	14
■講師・支部長奮闘記	
撮友会高島支部 〈中西攝勝〉	15
岳豊会豊岡支部 〈岸 岳月〉	15
浜松鷺長会 〈森下報薫〉	16
志舟会東粉浜教室 〈尾上紅篁〉	16
■シリーズ 教室探訪コーナー	
鷺恵会 泉南支部 広報部〈佐川駿声〉	17
青誠会 八鹿支部つるぎ分会 広報部〈塩路澄誠〉	18
■白さぎ地方の話題コーナー	
〈ONE TEAM〉で取り組む詩吟普及活動 青誠会〈川角誠庵〉	19
■機関紙コーナー撮友会会報「葦」 広報部〈岳野恍輔〉	20
■史跡探訪の旅	
近江八景の神髓を訪ねて 広報部〈天田澄慈〉	21
■女性部だより 女性部長 〈加藤扇郊〉	23
■青年部だより 青年部長 〈中岡蒼狼声〉	24
■白鷺連合会組織系統一覧	25・26
■楽しく・和やかに・一心向上	
本年もよろしくお祈いします	27・28
■編集後記	29
■行事予定	30

# 明けましておめでとうございます

白鷺連合会  
会長 西村 夕城



皆様には、健やかに新年をお迎えになられたことと思います。昨年は何かとご協力を頂きまして有り難うございます。

令和元年の諸行事もお蔭を持ちまして盛会裏に肅々と終了することが出来ました。

年明け早々からお金のことを申し上げるのも如何なものかと思いますが、現状の支出を続けたとすると、ここ数年で繰越金も一般会計準備金も底を突く状況にあります。従いまして令和2年度からの予算、事業推進につきましては、

各部局・常任理事会に於いてしっかり議論もして見直しをしたいと思いますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

私は地方の出なので、白鷺連合会のことが良く解っていませんでしたが、白鷺には企画・実行とも力を持っておられる方が多くおられます。

しかし次第に高齢になり、後継者が育っていないのも事実です。このことは各会に於いても然りだと思えます。令和2年からは将来を見据えて若い人（年も段位も）を誘って、吟詠も役務も担って頂く、若い人たちが目立つ年にしたいと思えます。各会の活性化の動きが、白鷺に、そして総本部にと繋がる年にしようではありませんか。

## 令和2年 白鷺連合会 新年互礼会 開催

白鷺連合会新年互礼会が、1月11日（土）中国料理「大成閣」において開催されました。午後4時に司会担当の互礼会開会宣言に始まり、大取鷺照副会長による力強い開会挨拶、飯田報鷺副会長先導による関西吟詩会歌合吟、酒井翔恵副会長先導による巻頭言唱和、塩路澄誠広報部長先導による白鷺連合会会歌合吟と、セレモニーは進みます。

西村夕城会長より白鷺連合会運営に対して会員の皆様のご支援ご協力にお礼の言葉あり、代表挨拶として伊東鷺伸顧問から、会員減少の歯止めが利かなくなっているが、常に英知を結集して難局を乗り越える白鷺の力を発揮しようと激が飛ぶ挨拶がありました。セレモニーが終わり、安田鷺迪顧問のご発声で、乾杯・宴の幕が開きました。これより宴司会は中岡青年部長率いる青年部員によって進められました。各人は杯を酌み交わし旧知を温め談笑・情報交換を行い、テーブルごとにカラオケ懇親も行われました。宴もたけなわ、時間はアツという間に過ぎ

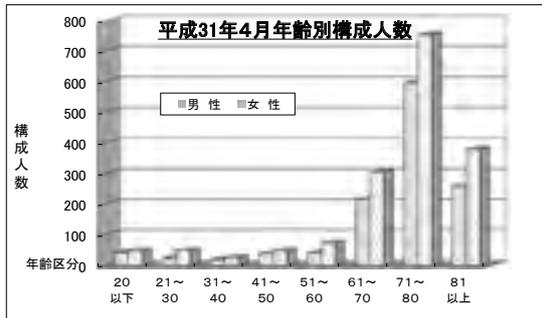
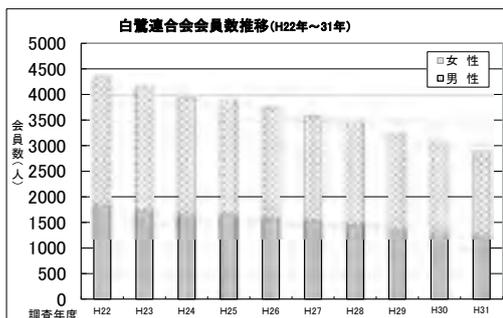
てまいります。小井鶴伸副会長の閉宴挨拶、松尾岳豊顧問の音頭により万歳三唱で閉会しました。名残尽きないなか、心の底から湧き出る白鷺の団結力は、今年も健在であると意を強く持ちました。  
記 塩路澄誠



# 令和元年度 実態調査の結果について

総務部で毎年実施している実態調査につき令和元年度の結果を報告します。

(総務部所管)



調査年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
男性	1843	1766	1667	1671	1599	1558	1472	1388	1309	1233
女性	2518	2391	2276	2212	2155	2031	1971	1870	1787	1679
合計	4361	4157	3943	3883	3754	3589	3443	3258	3096	2912

年齢区分	20以下	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81以上	合計
男性	42	24	19	38	41	216	596	257	1233
女性	48	49	26	48	73	303	753	379	1679
合計	90	73	45	86	114	519	1349	636	2912

## 関西吟詩総本部主催全国競吟大会に於ける白鷺会員の結果

### ◆令和元年度 新人中間層競吟大会 結果報告☆

令和元年11月10日(日) 於 エーリック (尼崎)

#### <新人の部>

- 4 位 山中 寿子 (鷺声吟詠会)
- 5 位 青木 朝紀 (鷺照吟詠会)
- 8 位 中神 慎七 (鷺伸吟詠会)

#### 入 賞

- 藤岡 佳子 (鷺声吟詠会) 浅田 理 (攝友会)
- 大原 陽子 (鷺伸吟詠会) 近藤ぬい子 (鷺伸吟詠会)
- 笹中 裕司 (淞苑会) 楠 房江 (鷺照吟詠会)
- 吉本 憲二 (攝友会) 奥野 耕司 (岳豊会)
- 今井富佐代 (岳豊会)

#### <初級の部>

- 優勝 山田恵美子 (春鷺声栄会)
- 4 位 谷山 祐美 (船場吟詠会)
- 8 位 上田 智祥 (攝友会)

#### 入 賞

- 土田 克美 (広島鷺夕会) 西澤 格 (鷺迪吟詠会)
- 川崎 重雄 (岳豊会) 赤羽根照子 (広島鷺雲会)
- 上江 勝志 (鷺照吟詠会)

#### <上級の部>

- 6 位 牧 紅葉 (鷺伸吟詠会)

#### 入 賞

- 綿貫 遥 (鷺照吟詠会) 石飛 雄三 (広島鷺夕会)

#### <和歌の部>

- 4 位 石飛雄三 (広島鷺夕会)

#### 入 賞

- 田中 幸恵 (岳豊会)

### ◆令和元年度 関西吟詩全国指導者級吟士権者決定吟詩大会 結果報告☆

令和元年12月8日(日) 於 高槻現代劇場中ホール

#### <吟士権の部>

- 8 位 石橋 英子 (広島鷺夕会)
- 10 位 池田 久志 (攝友会)

#### 入 賞

- 米田 真澄 (成秋会) 木谷 秀史 (鷺照吟詠会)
- 山本 正男 (鷺声吟詠会) 井垣 義昭 (岳豊会)
- 森 佳奈子 (攝友会)

#### <準師範の部>

- 6 位 重光 弘子 (広島鷺夕会)

#### 入 賞

- 池上 茂 (鷺照吟詠会) 岡田 正和 (鷺照吟詠会)
- 青田英次郎 (岳豊会) 森 民夫 (鷺伸吟詠会)
- 安田 匡文 (やまと吟詠会) 林 香代子 (淞苑会)
- 市原富美子 (鷺伸吟詠会)

#### <師範代の部>

- 優勝 伊藤 利博 (鷺伸吟詠会)
- 8 位 真下 幸信 (攝友会)
- 9 位 和田 彩香 (攝友会)

#### 入 賞

- 白神 陽子 (鷺照吟詠会) 田中ますみ (岳豊会)
- 佐藤 一弘 (広島鷺夕会) 菊川 節子 (淞苑会)

#### <和歌の部>

- 準優勝 石本哲郎 (広島鷺夕会)
- 6 位 伊藤繁子 (攝友会)

#### 入 賞

- 山本 忠昭 (広島夕朋会) 菊川 節子 (淞苑会)
- 池田 久志 (攝友会) 阪本 和世 (淞苑会)
- 伊藤 利博 (鷺伸吟詠会)

“この大会に早朝より準備、お世話を頂きました大会委員の先生方に厚く御礼申し上げます”

# 令和元年度 白鷺連合会理事総会

- と き : 令和元年5月11日(土)午後5時より
- と ころ : 海老江西コミュニティセンター

## ◇総会決議事項

(敬称略)

- |                                     |        |      |
|-------------------------------------|--------|------|
| 一、物故者に黙祷                            | 総合司会   | 山本翔伸 |
| 一、関西吟詩文化協会会歌合吟                      | 副会長    | 岡田岳遙 |
| 一、巻頭言唱和                             | 副会長    | 大取鷺照 |
| 一、白鷺連合会会歌合吟                         | 副会長    | 森口雪孝 |
| 一、定数報告並びに開会成立宣言                     | 副会長    | 酒井翔恵 |
| 理事総数 78名(出席25名 委任状出席 48名 未着5名) 総会成立 |        | 総務部  |
| 一、開会挨拶                              | 総務局長   | 岩間鶴声 |
| 一、会長挨拶                              | 会 長    | 西村夕城 |
| 一、議長選出 司会者により 森川源伸氏(鷺伸吟詠会)に決定       |        |      |
| 【議案】                                |        |      |
| 1号議案 平成30年度行事経過報告                   | 総務部長   | 谷澤暁声 |
| 総務局5部(総務・財務・事業企画・広報・ホームページ管理)       |        |      |
| 及び女性部、青年部一括報告                       |        |      |
| 2号議案 平成30年度会計決算報告                   | 財務部長   | 児玉登春 |
| 3号議案 平成30年度会計監査報告                   | 会計監査   | 若林鷺誓 |
|                                     |        | 村田訓洲 |
|                                     |        | 高田朱粋 |
| 4号議案 令和元年度行事企画案                     | 事業企画部長 | 古賀戌孝 |
| 5号議案 令和元年度予算案                       | 財務副部長  | 藤田秋敬 |
| 6号議案 会則改定の件                         | 総務局長   | 岩間鶴声 |
| 第2条(事務所) (原文) 本会の事務所は総務局長宅に置く       |        |      |
| (改訂) <u>本会の事務所は顧問松尾佳恵宅に置く</u>       |        |      |

(以上、1号～6号議案は、賛成多数を持って承認される)

## 【その他報告事項】

- |                           |        |       |
|---------------------------|--------|-------|
| ①第58回白さぎ吟詠の集い競吟大会結果報告及びお礼 | 実行委員長  | 酒井翔恵  |
| ②令和元年度会員実態調査報告            | 総務部副部長 | 森本敬声  |
| 会員総数 2912名 (前年比-184名)     |        |       |
| ③女性部(令和元年度行事計画)           | 女性部長   | 加藤扇郊  |
| ④青年部(令和元年度行事計画)           | 青年部長   | 中岡蒼狼声 |
| ⑤令和元年度会費納入についてお願い         | 財務部長   | 児玉登春  |
| 一、閉会挨拶                    | 副会長    | 酒井翔恵  |
| 一、万歳三唱                    | 顧問     | 安田鷺迪  |

## 未来に繋ぐ

副会長 中 谷 淞 苑



「待ちわびし 今日  
の集いや いかばかり  
子さぎ 孫さぎ  
喜びうたう」

創立55周年で、この  
和歌を朗詠して早や  
2年、月日の早さに  
驚くばかりです。今、

思い出しても何故かほのぼのとした気持ちで舞  
台に立ったような気がします。

年間の大きな行事は、新年互礼会、白さぎ吟  
詠の集い競吟大会、総会、青年部・女性部大会、  
白さぎ交流会そして令和元年秋には3年ぶり、  
1泊2日の白さぎ吟行会が開催されました。

どの行事をとっても素晴らしいと感じるとこ  
ろは、会員同志の仲間意識が強く、久し振りに  
会った方には懐かしく感じ、初めて会った方と  
もすぐに打ち解けて語り合うことができます。

このような雰囲気も歴代会長の先生方が「和  
と奉仕の精神」を脈々と継承され、私たち会員

に言い続けてくださったお陰と思います。

会員減少に伴い、財政も厳しく会員の皆様にも  
ボランティア精神で日々ご苦勞をおかけして  
いますが、この「和と奉仕の精神」は、これか  
ら先も白鷺連合会の根源を揺るがさない大切な  
教えだと感じています。

50年以上の長きにわたり、青年部活動を続け  
ていただけていますが、各会からも声がけをして  
青年部員さんを出していただき、そして会員皆  
で応援協力し、これから先の白さぎを担ってくれ  
る大切な逸材を育てて行かなければなりません。

親鷺である伊豆丸鷺洲先生から見れば、私は  
孫鷺に当たりますが、曾孫鷺、玄孫鷺（やしゃ  
ごさぎ）も頑張っています。この子たちが又、  
仲間を増やして楽しく詩吟を続けてくれること  
を願って止みません。

「いかほどの 重荷積むとも 伊豆丸は  
などか沈まん 責め果たすまで」



## 第58回 白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告

平成31年4月7日(日)恒例の上記大会が開催されました。会場は尼崎エーリックに於いて、延べ477名が参加し、日頃の精進の成果を発揮するとともに、会員相互の交流を深めた一日となりました。各部の成績は次の通りです。

### 【新人の部 上位入賞者】<佐藤鷺照杯>

優勝 谷山祐美(船場吟詠会)  
準優勝 西澤格(鷺迪吟詠会)  
第3位 阿藤成子(攝友会)  
第4位 近藤ぬい子(鷺伸吟詠会)  
第5位 青木朝紀(鷺照吟詠会)

### 【初段の部 上位入賞者】<井上鷺孝杯>

優勝 加藤百代(岳豊会出石但東)  
準優勝 菅沼裕行(浜松鷺長会)  
第3位 野元典子(鷺伸吟詠会)  
第4位 竹原美子(鷺照吟詠会)  
第5位 川崎重雄(岳豊会日高)

### 【貳段の部 上位入賞者】<松尾鷺恵杯>

優勝 服部幸子(鷺伸吟詠会)  
準優勝 井谷圭子(鷺伸大阪仲友)  
第3位 杉山茂夫(鷺伸大阪仲友)

### 【参段の部 上位入賞者】<読売新聞大阪本社杯>

優勝 鬼頭知里(鷺伸吟詠会)  
準優勝 渡辺省一(鷺照吟詠会)  
第3位 太田雅代(浜松鷺長会)  
第4位 松本幸江(鷺迪吟詠会)  
第5位 田中千香子(岳豊会豊岡)

### 【上級の部 決勝吟詠】<大阪市長杯・塩谷鷺声杯>

優勝 内座由紀葉(鷺照吟詠会)  
準優勝 森民夫(鷺伸吟詠会)  
第3位 紀野実知子(浜松鷺長会)  
第4位 百合正和(岳豊会日高)  
第5位 真下幸信(攝友会)  
第6位 太田忠史(淞苑会)

### 【最上級の部 決勝吟詠】<大阪府知事杯・伊豆丸鷺洲杯>

優勝 森佳奈子(攝友会)  
準優勝 森順道(鷺声吟詠会)  
第3位 坂本住子(志舟会)  
第4位 羽世田清美(岳豊会日高)  
第5位 伊藤繁子(攝友会)  
第6位 舟橋末光(鷺伸吟詠会)

### 【壮年①の部 上位入賞者】<伊東鷺伸杯>

優勝 山中寿子(鷺声吟詠会)  
準優勝 藤岡佳子(鷺声吟詠会)  
第3位 嘉久雄才(鷺郷吟詩会)  
第4位 高谷勝彦(淞苑会)  
第5位 建部勲(鷺声吟詠会)

### 【壮年②の部 上位入賞者】<安田鷺迪杯>

優勝 日原裕晴(鷺郷吟詩会)  
準優勝 田路唯司(青誠会)

第3位 廣田寿子(鷺恵会)

第4位 山中利夫(淞苑会)

第5位 埜洋子(鷺迪吟詠会)

### 【壮年③の部 上位入賞者】<松尾岳豊杯>

優勝 山本進(鷺伸大阪仲友)  
準優勝 間嶋節子(鷺迪吟詠会)  
第3位 川角範子(青誠会)  
第4位 吉谷照子(岳豊会日高)  
第5位 川嶋嘉代(鷺迪吟詠会)

### 【和歌の部 上位入賞者】<植村鷺登杯>

優勝 米田眞澄(成秋会)  
準優勝 剣持和江(鷺照吟詠会)  
第3位 内田育子(岡山鷺照会)  
第4位 森下ふで子(浜松鷺長会)

### 【連吟の部 上位入賞者】<領木鷺舟杯>

優勝 池上茂  
石田隆(鷺照吟詠会)  
準優勝 窪田昌子  
白神陽子(鷺照吟詠会)

### 【俳句の部 上位入賞者】※今回から追加

<松尾佳恵杯>

優勝 小田川鈴枝(広島鷺夕会)  
準優勝 筑摩信子(攝友会)  
第3位 寺泉睦子(淞苑会)

### 【新体詩の部 上位入賞者】※今回から追加

<西村夕城杯>

優勝 石橋英子(広島鷺夕会)  
準優勝 尾上美千恵(志舟会)  
第3位 桑山祥博(鷺伸吟詠会)  
第4位 須田輝美(鷺伸吟詠会)

### 【合吟の部 上位入賞者】

優勝 坂本朋義ほか(鷺照吟詠会)  
準優勝 阪本和世ほか(淞苑会)  
第3位 吉谷照子ほか(岳豊会日高)

### 【団体の部 上位入賞者】

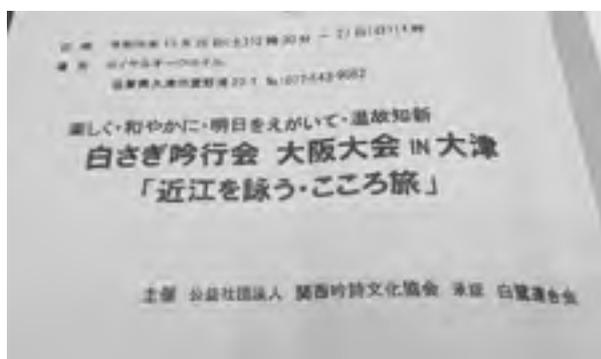
優勝 鷺伸吟詠会

### 【年少の部】

優勝 松好映実(天理吟詠会)  
奨励賞① 森陸翔(岳豊会豊岡)  
奨励賞② 向田陽菜(澄峰会)  
奨励賞③ 森海翔(岳豊会豊岡)  
奨励賞④ 日樫誉(淞苑会)  
奨励賞⑤ 箕輪しおり(澄峰会)  
奨励賞⑥ 堀尾太一(天理吟詠会)  
奨励賞⑦ 伊予木奏(澄峰会)

# 白さぎ吟行会「大阪大会in大津」開催される

令和元年10月26日～27日2日間にわたり、2年ぶりに開催された白鷺吟行会。今年は大阪大会ということでしたが、滋賀県大津市にあるロイヤルオークホテルでの開催となりました。滋賀県と言えば、日本一の琵琶湖があることで知られ、芭蕉が詠い、歌川広重などが浮世絵に残した「近江八景」でも有名です。そこで今回は「近江を詠う・こころ旅」と題し「楽しく・和やかに・明日をえがいて・温故知新」をテーマに、220名余りの白鷺の仲間が集いました。



大会の初めは構成吟「近江を詠う・こころ旅」です。サイクリングで近江八景を周遊しながら、風光明媚な景色や現代も残る史跡を辿っていく旅物語です。ナレーターは総本部青年部長の安田行軌さん、白鷺連合会青年部長の中岡蒼狼声さんのフレッシュな2人！本格的なナレーションには初挑戦とあって、やや緊張の面持ちです。担当地区の大阪を初め、兵庫、奈良、愛知、広島、岡山などから参加の皆さんが出演し、素晴らしい吟詠を披露しました。和歌や俳句に吟詠、島崎藤村の詩の朗読などを織り交ぜた企画番組は滋賀県の素晴らしさを凝縮した内容となっており、改めてここ滋賀が古の歌人にも深く愛された土地であることが分かります。美しい景色や歴史の映像を見ていると、まるで自分まで爽やかな風に乗ってサイクリングをしているような錯覚に陥りました。またラストの琵琶湖周航の歌では映像に歌詞が映し出され、会場の皆さんも出演者と共に歌声を合わせて、綺麗なハーモニーを奏でました。

続いては、交流吟詠「秋を吟う」です。各会



合同での合吟、会代表の連吟や独吟など、30曲近くもの秋にちなんだ詩を詠いました。ラストの「九月十五夜」では、鷺伸吟詠会の片山櫻伸先生が交流吟詠の締めくくりに相応しい見事な剣舞を披露され、広い会場を魅了しました。

また最後は役員の先生方初め、白鷺を支えてこられた歴代会長の吟詠が披露され、無事に舞台番組が全て終了することができました。

続いて、青年部のメンバーの司会で元気に始まった懇親会。オープニングの舞台に用意されたのは古くから滋賀県に伝承される民謡「江州音頭」です。



男女3人で歌い分けながら、その長い民謡を数十分にもわたりご披露いただきました。民謡に合わせて景気よく登場したのは、休憩の間に大急ぎで浴衣に着替えた実行委員の女性メンバーです。覚えたての盆踊りを足袋一枚になって会場中を踊り歩く姿とともに、その勢いで懇親会は大いに盛り上がっていきました。各地方や各会で準備されたかくし芸では、お馴染み岳豊会の銭太鼓や、名古屋の武田節の詩舞など、書ききれないほどの熱気溢れる出し物であったという間に宴もたけなわとなってしまいました。



岡山組は懇親会が終了すると一足先に帰路へ着き、皆と別れを惜しみました。

さて、翌朝はバス3台で一路石山寺へ向けて出発！途中、漢詩にも詠まれた瀬田の唐橋を通りましたが、その欄干の色は、朱色でも木の地色でもなく、珍しいクリーム色をしており、バスの中から「おお～これが唐橋か」とあちこちで声が上がりました。



石山寺では心臓破り？の長階段を登らねばなりませんでしたが、どなたも脱落することなく無事に本堂へ到着しました。本堂では中谷淞苑先生の先導による和歌二題を奉納いたしました。

その後場所を移して、この石山寺の女性副住職の講話や石山寺の歴史を拝聴することができ、33年に1度の本尊観世音の御開扉も、天皇

即位の翌年には特別に開扉をされるなどを伺い、滅多にないこの機会に来年も訪れてみたいとなりました。



昼には寺の麓の「洗心寮」にて美味しいお酒とお食事をよばれ、吟行会大阪大会in大津無事に幕を閉じました。



実行委員長の古賀成孝先生には何度も現地に足を運んでいただき、実行委員の皆様には何か月も前から色々ご準備いただき、誠にありがとうございました。

次回は令和3年、静岡県浜松での開催となりますので、また皆様元気に2年後浜松でお会いしましょう。

記 佐川駿声

## 第五回 白さぎ交流会

白さぎ交流会が平成31年3月10日（日）西淀川区民ホールに於いて参加者129名で開催されました。岩間鶴声副会長の挨拶で開会いたしました。黙祷・会歌合吟・巻頭言と進み最後は西村夕城会長のしらさぎへの篤い想いをお言葉として聞かせて頂きました。

その後会員増強表彰と進み、昨年表彰の船場吟詠会からトロフィーが返還されました。今年度は鷺照吟詠会・鷺郷吟詩会・広島鷺雲会が表彰されました。おめでとうございます。



講演は親鷺「伊豆丸鷺洲先生のおひげ」と題され、顧問 伊東鷺伸先生からお話を頂きました。新しい事を学ぶのも大切、しかし「白さぎ」の成りたちを知ってもらいたいとお話は始まりました。伊豆丸鷺洲先生は宮崎東明先生の教えを大切にされ、特に「時間」には厳しく、身をもって示された。遠路の教室へも身軽に出向かれ、指導に当たられたと聞き、「和と奉仕の精神」の意味を知りました。また伊豆丸鷺洲先生のおひげは、とにかく真っ直ぐだったそうです。毎年、4月に開催されます「白さぎ吟詠の集い競吟大会」の「集い」の言葉は競う前に「集ることが大切」と、伊豆丸鷺洲先生の「和」の教えとの事でした。

午後からは本題の詩歌朗詠研修 講師は副会長中谷淞苑先生・副会長大取鷺照先生の丁寧な説明のあと、全員で唱和の後、谷澤暁声先生と塩路澄誠先生の模範吟詠で講習は終わりました。

その後、模擬競詠として八名が挑戦、模擬審査員の先生方も一言ずつ講評を述べられ、最後は副会長小井鶴伸先生のまとめで締めくくられました。全員が緊張の中、濃い研修でした。



その後、名札の裏に記されたナンバーで11テーブルに席を替え、ジャンケンで司会・書記を決め、「白さぎ交流会」「白さぎ競吟大会」「白さぎ吟行会」のテーマについて成功への素直な意見を各々が延べ、アンケートとして提出しました。



16：30からはお楽しみの懇親会、顧問植村鷺登先生の乾杯で始まり、あっという間の1時間でした。顧問松尾佳恵先生の万歳で終演 相談役山根鋒孝先生の閉会の辞で散会となりました。

席替えのままでの懇親会で新たな親交も深まり、又の再会を約束しました。



記 天田澄慈



「交流会に思うこと、吟詠の集いに思うこと、吟行会に思うこと」の3つのテーマにて、役員、会員関係なくそれぞれテーブルの席替えが行われ、11テーブルに分かれ、ディスカッションに入りました。意見交換の内容は、提出されたアンケートに反映、それをもとにまとめてみました。  
(岳野恍輔)

## 交流会ディスカッション主な意見（集約）

### ①白さぎ交流会に思うこと

- ・他会の人と交流を通じて語り会える。(複数意見あり)
- ・府連一次と重複、難しいが日程調整してほしい。
- ・教室でやっていない、俳句、新体詩の指導は勉強になる。(複数意見あり)
- ・交流会は今後も継続してほしい。
- ・伊東先生の伊豆丸先生のお話で、白さぎの歴史勉強になった。(複数意見あり)
- ・交流会とは別に、研修会を設けてほしい。
- ・吟講習は大変良かった。

### ②白さぎ吟詠の集いに思うこと

- ・実行委員（スタッフ）の苦労が大きい。
- ・ほかの大会も参加者が減となっている。吟詠大会が重ならないように、また日程の変更は出来るだけ無くしてほしい。4月第二日曜日に決めてほしい。
- ・吟詠大会2年に1回してはどうか。
- ・テキストも新しくなり負担も増えている、参加者も減少すると運営も大変ではないか。
- ・前奏はコンダクターから、CDに変えてほしい。
- ・今回から、俳句・新体詩が対象になり、新人開拓になるのではないか。
- ・舞台に出ると緊張する。審査員の先生を窓側に変えてほしい。
- ・参加費3,000円以上は無理、年会費師範代以上は1,000円にしたらどうか。

### ③しらさぎ吟行会に思うこと

- ・1泊は費用が高すぎる。
- ・1泊は参加しにくい（特に主婦）、日帰り出来るように検討して下さい。(複数意見あり)  
また、日帰りでお土産付きにしては。
- ・遠方は、道中も疲れるし、高齢者はしんどい。

### ○その他

行事が多く、動ける人が少なく動ける人が決まってしまう。

以上

# 浜松鷺長会創立55周年記念祝賀会

特別番組 構成吟「凜として（河井継之助）」を終えて

浜松鷺長会 講談師（脚本・演出担当）村松涼憲

令和元年11月17日午後一時、構成吟「凜として」の開始の拍子木が会場に鳴り響いた。

坂下さんによる小気味の良い拍子木の音が、客席の雰囲気グッと引き締めるとともに、舞台袖で控えている出演者を一瞬のうちに凍り付かせる様な緊張感が、もうどうにも引き返す事のできない絶望感となつて、出演者に迫りつつあるかの様だった。

こうして構成吟は始まった。一番バッターの星川さん、ちょっとミスったがいつもの迫力ある吟がそんな些細なことを帳消しにした。次のナレの大田さんは、練習のかなり始めからセリフが入っていて本番でも他の出演者の心を落ち着かせるナレをしていた。本番に強いのが中瀬さん！練習ではいろいろ苦勞していた様だったが、本番では「三島中洲」を好演していた。千尋（鈴木昇千）さんの「鈴木虎太郎」は一語一語を大切に話す話し方で、重厚感を出していた。

今回の出演者の中で一番驚いたのは、「鷺長会会主」の吉田鷺航先生が役を引き受けて下さったことだった。立場上、絶対に舞台には出て頂けないと思っていたが、快諾して頂き、練習中にも演出指導を気良く受けられていた。

もう一人、途中降板の人の代役を急遽引き受けて頂いたのが、大隅さんだ。オーバーエイティ（80歳越え）にも関わらず、誰よりも早くセリフを覚え、好演していただいた。



後半の中心は、なんと言っても「河井継之助」と「岩村精一郎」との「小千谷会談」だった。

練習では、もうひとつぱっとしなかった桶田さんも本番では継之助に成りきっていた。さすが！

相手役の「岩村精一郎」を演じた水野さんは、高い身長と声で充分に若い岩村の無配慮で高慢なところを表現していた。

舞台というのは、自分にとって麻薬のようなものだ。我々の日常とは全く関係の無い世界だが、経験してみると、離れたくない恐怖と快感がある。

今回50分という制限の中で、小千谷会談を軸に話を進めたが、まだまだ彼には切り取るべきいろいろな魅力がある。



次にも機会があれば、また継之助と遊んでみたいものだ。そして今回の吟友と共に新しい舞台を作り出して行きたい。

最後に一句！

射貫いぬかるる ほどの眼力 稲妻の  
耳にのこるは 柏の御紋

拙作

# 公認 岳豊会日高支部創立四十周年記念吟詩大会を終えて

日高支部長 田中岳涼

菊薫る良き日、11月24日に日高支部創立四十周年記念吟詩大会を開催致しました。40年前に責任講師、現岳豊会会長松尾岳豊先生ご指導のもと、先輩の先生方の熱意と努力で創立されました日高支部の40周年という節目の年に支部長をさせて頂いています事に、責任の重さを深く感じています。

大会に向けて昨年度より準備を進めてきました。テーマは、会員相互の和が日高支部の発展につながる。教室の和、日高支部の和を願い和と決めました。奇しくも新元号の令和の和とも重なり記念すべきテーマとなりました。

テーマに加え記念誌の発行と記念品。また相談役の岡田岳遙先生にお願いし祝詞の漢詩を作っていただき、大会当日出席者全員での大合吟と致しました。感激ひとしおでした。



また記念誌は会員の皆様の詩吟に対する思いのいっぱい詰まった記念誌となりました。

我が支部の三代目支部長 朝倉岳翔先生は90歳にしてまだまだお元気で指導者としてご活躍をいただいています。今年度2名の新会員の確保。私たちに教室の生みの苦しみを知らんなあかん！と叱咤激励をいただいています。



日高支部初の女性支部長としてきめ細やかなご指導を頂きました、4代目支部長 原田岳蓉先生。漢詩の作詩やハーモニカ演奏の得意な5代目支部長 岡田岳遙先生に続き6代目として現在私が支部長を務めさせて頂いています。

私のモットー、元気で明るく楽しい日高支部を目指して役員の皆様、会員の皆様と力を合わせ頑張っています。お陰様で記念大会は大成功のうちに終えることができました。我が支部は役員の皆様がパソコンを使いこなし、それぞれが責任をもって役割を果たして下さいます。その力が一つになり記念大会の成功を収めることができましたと思っています。又当日の各教室・指導者の吟は、テーマ和にちなんだ詩を選び出し、教室に割り当てました。普段あまり取り上げられる事の少ない詩が多く、練習にはご苦勞もありました。その中には、肩を揉むの新体詩も含まれ、私が挑戦致しました。



祝賀懇親会のオープニングは、賑やかに祭りの歌と踊りで始まり、続いて銭太鼓・詩舞・20名での山のあなたの朗詠・恋するひだかのオリジナルCDに合わせ、全員で軽く体操・カラオケ等で楽しみました。最後は河内おとこ節の歌に合わせ、全員での踊りの輪ができ、日高支部が一つになりました。元気で45周年に向かって一緒に進んでまいりましょうと約束を交わし記念大会を終了と致しました。ここから又思いを新たに日高支部のさらなる発展に力を注いでまいりたいと思います。

# 恩師 松尾鷺恵を偲ぶ会

鷺恵会 山田峻恵

鷺恵会は9月27日（金）に大阪市福島区のホテル阪神大阪で「～人生100年吟道80年～恩師 松尾鷺恵を偲ぶ会」を開催し、参列頂いたご来賓の先生方と私たち会員が吟界に残された故人の功績と人柄を偲びました。

鷺恵先生は白鷺連合会第2代会長及び関西吟詩文化協会総本部第5代会長を歴任。平成20年には宗帥第1号を授与されています。



花々で飾った祭壇には穏やかな表情の鷺恵先生の遺影が置かれ、会場に往年の吟声が流れる中、開会しました。

まず鷺恵会理事長の酒井翔恵実行委員長が「今年の11月6日に3回忌を迎えるにあたり、生まれ育った福島で偲ぶ会を開くことになりました。

来賓の皆様から鷺恵先生の思い出話を伺えるのは会員一同大変喜ばしく感じています」と挨拶されました。

次に関西吟詩文化協会総本部会長の地藏哲暲先生、元老 伊東鷺伸先生、元老 大橋鷺迅先生よりご挨拶をいただきました。地藏先生は、「関西吟詩が発足した昭和9年に入会された鷺恵先生の生涯は、関西吟詩の歴史そのものです」と話され、伊東先生からは「関西大学吟詩部時代、鷺恵先生と柳川先生との素晴らしい連吟を

聞き感銘したことで、詩吟が好きになりました」と思い出話を披露され、また大橋先生は「松尾のお母ちゃん”あんだ”と、お互いに呼び合うほど親しくさせていただいた」と、楽しいエピソードを披露していただきました。



出席者が会歌を合吟

その後、故人を偲び全員が献花台に白いカーネーションを捧げました。会食に入り、鷺恵先生の吟道80年の歩みをスクリーン映像でたどりながら、来賓の皆様からは心温まるコメントをいただきました。



昭和51年当時  
吟詠リサイタル



ご来賓の先生方と松尾佳恵会長（中央）

鷺恵会会員の半数以上は鷺恵先生の往年の姿を知らず、吟界に残された大きな功績を改めて思い知らされた次第です。

私たちは鷺恵先生に師事できたことを誇りとして、これからも「鷺恵」の名を永く残すよう努力・精進していく決意です。